

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を共有して、ケアの実践につなげている。毎朝、ミーティング時に理念を唱和してから業務に取り掛かっている。	事業所独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう共有スペースに掲示し、毎朝のミーティング時に職員全員で唱和しています。また、半年毎の個人目標も設定し振り返りの機会も設けています。	調査時点で職員の個人目標の半年毎の振り返りがされていない職員がいましたので、今後のチェック体制を検討されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の周辺に保育園、小学校、中学校がある。地域の方から野菜の差し入れがある。地域との交流はコロナ禍のため一部中止となっている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、事業所のお祭りに地域の方にも参加して頂いているほか、近隣の保育園の園児に来てもらったり、中学生の体験学習も受け入れる等積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園児との交流、中学生の職場体験、実習生の受け入れはコロナ禍のため、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議は今年5月に対面で開催しているが、その後はコロナ禍のため、書面開催としている。たくさんの意見や励ましの言葉も頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、新型コロナウイルスの影響で書面での開催もありますが、ご家族、地域包括支援センター職員、他の事業所管理者等から出席してもらっています。事業所の行事に合わせることで、多くのご家族からご参加頂いています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議で報告している。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、地域ケア会議にも参加するなどし、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。基準の見直しを行い人感センサーも身体拘束扱いとした。代表者及び、全ての職員が理解してケアに取り組み、現在、身体拘束者はいない。	ご家族との協議のもと身体拘束を行うケースもありますが、職員間で日々の業務の中で気付いたことをノートに記載し、事業所にて身体拘束についての学習会の機会も設け周知徹底しています。玄関の施錠も夜間のみとするなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴介助や清拭時、おむつ交換時に全身を観察し、あざや傷の確認をしている。疑わしい段階でも必ず看護師、管理者、ケアマネジャーに報告している。外部研修で資料を元に学習会を行っている。	虐待防止に関する外部研修に参加したり、事業所にて研修や事例検討を行い周知徹底しています。また、事業所でも接遇研修の機会を設け、日頃の言葉遣いにも気を付けるようにし、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用するご利用様は今現在いらっしゃらないが、今後、必要に応じてご利用様には関係機関への橋渡しをしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に、ご本人、ご家族様に見学や説明をして、不安や疑問が解消されるよう丁寧に説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やカンファレンス、利用料金の支払いのために、来所された時などに意見や要望等をお聞きして運営に反映している。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会社役員と3つの事業所のリーダーで意見を持ち寄って会議を行い、その後、各職場で報告や意見を出し合っている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、会議で検討したい内容を事前にあげて、毎月の職員会議で職員同士で検討が行われ、改善されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きながら研修や勉強をし、資格取得のための環境が整っている。また、資格取得のための必要経費についても相談にのってもらえることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、新型コロナウイルス感染のため、外部への研修を受けることができない状況。オンライン研修に参加し、職員が講師となり学習会を行った。毎月、施設内で学習会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、新型コロナウイルス感染予防のため、他の施設との交流を控えている。各事業所ごとに学習時間を設けて勉強会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネと生活相談員が訪問して、情報を収集する。収集したものが現場においてくる。職員間で情報を共有し、利用初日までにご本人様のイメージができています。その上で、困っていること不安に思うことが無いが、関係を作りながら対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の情報、ご家族様が困っている事、希望等を事前訪問や施設見学時にお聞きし、職員間でアセスメントを行い、情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に合ったサービスや支援方法について、ご本人、ご家族、ケアマネと何度も話し合いをして、必要とされる支援が行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分ができる事を継続して頂けるよう関わり、相談しながら日々の生活を守っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防のため、面会はアクリル板越しで実施している。その際には日々の様子を伝えお、ご家族様と共に、本人を支えているものとして相談しながら関係を築いている。	ホームページにて事業所での生活の様子を情報発信しているほか、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただいたり、運営推進会議や事業所のだんらん祭りにもご家族に参加していただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防をした上で、時間の制限やアクリル板を使用し施設内で面会をして頂いている。外出時に外食は控えて頂いている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛して頂いていますが、ご家族の協力を得て定期的に自宅に帰られたり、行きつけの美容院へも出かけるなど、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の過ごし方からその方の性格や傾向を見ながら、心地よく会話を楽しんで頂けるように配席に注意している。お互いに居室を行き来されている様子も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで行っている為、サービスを終了して自宅に戻られる人はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく希望にそえるように情報を職員間で共有している。意向に沿えない場合も職員会議で意見を出し合い、暮らししやすいように努力している。	サービス担当者会議にもご家族に参加して頂いたり、毎月の職員会議でカンファレンスを行い、情報を共有しケアプランの検討に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の本人確認の際に、その方の生活歴や嗜好を伺っており、その情報を手掛かりにご本人との関係作りをしている。そこから新たな情報が得られ、時にご家族様にこれまでの様子を伺うなどして理解を深めるように努めている。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。定期的な情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活を把握する為、日々の状態を記録に残し、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のモニタリングを行っている。ご家族様、ご本人様、関係職種と話し合い、現状の確認をしながら必要なサービスと対応方法について検討している。	6か月ごとの短期目標をご本人・ご家族の意向を踏まえ介護計画を作成しています。また、毎月モニタリングを実施し、サービス担当者会議もご家族に参加して頂き、介護計画を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護計画書に沿って記録している。職員間で共有し、問題点はケアマネに伝えるとともに、職員全体で解決に向けた話し合いをし、介護計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況の変化や困り事、心配事を伺った際には、必要職種で話し合いをして対応の検討をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、保育園、小学生との交流は行っていないが、ボランティアの受け入れを再開している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人様及びご家族様の希望によってかかりつけ医が異なる。提携医からの月一回の往診を受けている。	事業所に往診も来て頂いており、かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっています。受診時の医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供書を医師に渡すなどの情報提供も行っていきます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚・身体を観察を行い、異常があった際には看護師へ報告を行っている。また夜間帯の睡眠状況や日中の精神状態についても適宜看護師へ報告している必要な対応を受けており、毎日1～2回看護師がご利用者様の状態確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ケアマネや看護師から情報提供を行い、必要な場合は職員が付き添いを行っている。退院時も必要職種で状態の確認を行い、事前のカンファレンスは状況に応じて開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の状態に合わせて、必要時には早めにご家族様に報告をしている。同時に今後起こりうる変化についてもお伝えし、対応方法について、ご家族様の考えを都度確認している。施設で提供できる対応について説明し、同意を得ている。介護職員は終末期を安心して過ごして頂けるよう努めている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	調査時点でご家族から頂いている看取り介護同意書の様式が2種類ありましたので、今後統一されることを期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会にて事故防止対策の対応について勉強をしている。応急手当や初期対応は実践力を身につけて対応できるよう努めている。	事業所内で応急手当の研修会も行っているほか、緊急時に持ち出せるようにご利用者の情報をまとめたファイルも作成し、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、今年は5回、夜間想定で避難訓練を行った。災害時(地震)時の対応について学習会を行った。	年に5回、夜間を想定した避難訓練を併設の小規模多機能型居宅介護・有料老人ホームと合同で行なっています。非常用の食品や水も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がプライバシーに配慮した対応、言葉使いを心掛けている。また注意し合える関係作りにも力を入れている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように毎朝のミーティングや職員会議、接遇研修の場等で徹底されています。また、ホームページへの写真の掲載についても契約時にご利用者にご確認されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「はい、いいえ」で返答できる聞き方や、その方の状態に応じて、より意思表示で可能な質問、尋ね方を使い分けながらご利用様の自己決定に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の希望に沿いながらも、体調を見ながら対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整髪の声掛けをしており、可能な方にはご自分で整えて頂き、出来ない方には職員が支援して身だしなみを整えている。また衣類の選択についてもご本人と相談しながら衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下処理を手伝って頂いている。食事中にその日のメニューを話題にして季節を感じながら召し上がって頂いている。	ご利用者にもできる範囲で野菜の皮むきや下処理も行ってもらっています。献立も季節に合わせたメニューも取り入れているほか、近隣の食事処への外食もご利用者の楽しみとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して必要な食事や水分が摂れるように状態に応じてこまめに摂って頂いたり、形態の工夫をしたり、摂れるものを食べて頂いている。そのことについては記録に残し、また職員間で口頭で伝え情報の共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態を確認しながら、必要に応じて仕上げ磨きやスポンジブラシを使用している。食事の前に口腔体操や発声練習をして嚥下機能の向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のタイミングを把握し、その方にあった排泄介助を行っている。おむつを使用しても不快にならないよう、当て方や使用するものを適宜検討している。	必要な方には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	事業所で使用している排泄チェック表の様式が令和4年でなく平成4年と記載されておりましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に気をつけている。運動共に、日々の排便の確認を行い下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に沿った(湯船につかるのか、シャワー浴なのか。入浴の順番等)入浴支援を実施している。また、心身状況に応じて入浴方法を検討している。	基本は入浴は午後にはしていますが、ご利用者の状態や希望に添った時間帯や同性介助の要望に合わせて入浴支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて休んで頂いている。希望時や気候の変動に合わせて対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用と副作用について理解を深め、内服後の症状の把握に努めている。適宜、看護師や家族へ状態の報告を行っている。内服については本人の名前を読み上げて内服をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の皮むきや、下ごしらえ、季節の工作、軽作業やレクリエーションご利用者様の得意、不得意に応じて提供しており、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や敷地内の散歩を行っている。新型コロナウイルス感染予防の為大勢での外出は控えているが、少人数でドライブに出ている。	年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年にご利用者と一緒に散歩に出かけたり、近隣の食事処に外食に出かけたりもしています。また、お花見などの季節に合わせた外出も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が難しいため、事務所に保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、ご利用者様が電話されたい時はケアマネと相談した上で会社の電話を使用している。お正月には年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を採り入れた貼り絵や創作物を作成し、共有空間に飾っている。自室が分かるような目印としての飾りものを使用し安心できるよう配慮している。	居間兼食堂からは畑や林が眺められます。一段上がったところには畳のスペースがありそれを囲むように回廊があります。壁にはご利用者のスナップ写真が沢山貼ってあり、日常の様子が分かりやすくなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でのテレビ視聴やビデオ鑑賞、読書、創作活動、気の合ったご利用者様同士の会話ができるようなテーブルの設置と配席に配慮している。また必要な方には間仕切りを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が使い慣れ親しんだ家具や日用品を持ち込んで頂き、落ち着いて、安心して過ごして頂けるようにしている。	居室には、使い慣れた家具などを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、ホームで作成した個別のご利用者の写真を掲載したカレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるような目印としての飾り物の使用、日常生活のできること、分かることを一律ではなく、個人を大切にその方に合わせた対応、ものごとの提供をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない